

【学年】 1 年	【教科・単元】国語 「おむすび ころりん」(全六時間)
【実践内容】 ○単元目標 場面の様子を想像しながら読んで昔話を楽しみ、また、声に出して読んで言葉の響きやリズムを楽しむ。 ○実践の概要 おじいさんの様子や気持ちを想像しながら音読する。 音読の工夫を考える。 主発問 ①一の場面(初め～P 6 1 L 5) おじいさんは働き者だと思うか。 ②二の場面(P 6 2 L 1～P 6 3 L 2) おじいさんは自分から穴の中へ落ちたのか。 ③三の場面(P 6 4 L 1～終わり) おじいさんとおばあさんは宝物が出ると知っていて、こづちをふったのか。 ★知的好奇心について 各場面において、主発問を用意した。それに対する児童の答えから音読の仕方の工夫点がさらに深められ、結果、知的好奇心を満たすことができるのではないかと考えたからである。	
【子どもの様子・反省】 「おむすび ころりん」の昔話が好きで、場面の様子を想像することも楽しんでいたり、言葉の響きやリズムを楽しみながら音読をすることもできていた。 主発問に対する児童の答えは実に様々で、挿絵を見て考えたり、文章に書かれていることから考えたり、していた。また友達の意見を聞いて、自分も同じ意見だと言えたり、自分はこう思っていたけど考えが変わったと言えたり、児童間の交流もできたのではないかなと思う。そして意見が活発になるにつれて、自然と動作つきで意見を発表する児童が出てきたり、それを真似する児童が出てきたりしたこともよかったと思う。 意見が活発になって全員が発表する時間がなかったり、見やすい板書ができなくなったりしたことは、反省すべき点である。音読の声が小さい児童やすらすら読めない児童に対する支援や改善策を今後も考えていく。	